

獨協埼玉中学校 令和5年度 第三者評価

実施日:5月29日

1. 基礎学力育成、中学生中弛み防止、日常の学習習慣定着について。

朝学習や補習、授業開始時間のバッファを設けることの効果が出ているようなので、この方向継続で問題ないと思われる。自習室の活用促進も同様だが、自習スペースがあまり多くない(かもしれない)。生徒は思い思いに空間を選ぶので自習室は複数あった方がよいのではないか。学習習慣定着に外部企業の力を借りることは、教員の働き方改革が注目されている今、何も後ろめたいことではないので、積極的にPRしてもよいのではないであろう。

中弛み対策に関して。何のための中高一貫教育なのか、ただ単に高校受験がないだけではなく、深くゆっくりと物事に取り組むことができる貴重な期間なので、教える側も教わる側も保護者もその認識を深め、学業・部活動のほか、ボランティア・地域活動あるいは趣味など生徒が時間をかけて体験すること、夢中になることが見つかるような提示があってもいいのでは。その意味で、卒業論文の取り組みを有効に活かしたい。

2. 携帯電話・SNSの使用方法について。

過去何年間も課題になっていながら一向に解決の糸口が見えない問題ではあるが、継続的且つ地道な声かけを続けてほしい。昨年まで挙げていない方策としては、具体的に何が悪いのか、どこが悪いのかを理詰めで考えさせる機会を作り上げることを提案する。

3. 登下校時の安全確認とマナー向上について。

これも過去数年来の課題。2にも通じることだが生徒だけで問題解決を協議させてはどうか。他校では生徒会主導でこの問題を取り上げ、ポスター作製などを実施していた。どちらもただ単に叱る、指導するだけでは解決しない。インターアクト同好会が、点字ブロックへの注意を呼びかけるポスターを作成しているが、好例として他のものも検討してはどうか。